

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	滋賀医科大学	整理番号	U03
プログラム名称	アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト		
プログラム責任者	小笠原 一誠	プログラムコーディネーター	三浦 克之

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、特に中間評価以降、格段の改善が見られ、充実した英語教育、リーダーシップ教育及びインターンシップ等が実施されている点については十分に評価できる。また、留学生の日本語能力を向上させ日本人学生との相互理解の促進等に注力した点も、特長的な試みとして評価できる。一方で、これらの魅力あるプログラムが、日本人学生、特に自大学出身学生の応募増加につながらず、むしろ入学者数が減少している点に留意し、今後その対策を検討する必要がある。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、在学生の就職先希望状況が多角化し、民間企業や行政・国際機関への就職を志望する者や起業を志望する者が出てきている点は評価できるが、令和元(2019)年 11 月時点の 8 名の修了者全員が大学・研究機関等のアカデミアに就職している点を考慮すると、修了者の就職先が多角化するためには継続的な努力が重要である。また、修了者の社会での活躍状況を把握するため、プログラム学生・修了者・教職員の情報交換、交流の場として本プログラムの Facebook ページを開設した点や、修了後、自国に帰ることの多い留学生とのネットワーク構築を進めている点は評価できる。しかし、このような仕組みがうまく機能して、活発なネットワークが形成されるためには、もう一歩踏み込んだ工夫と関係者の更なる熱意が求められる。

事業の定着・発展については、アジア疫学研究センターと社会医学講座の再編成を行い、新たに「NCD 疫学研究センター」を設置し、専任教員 4 名の体制として本プログラムの基本構造を維持した「NCD 疫学リーダーコース」の教育を主導する点は評価できる。また、「発展型アジア NCD 超克 SUMS 留学生プログラム」の導入により、大学全体でグローバルリーダーを育成する取組となっている点も評価できる。しかしながら、事業を継続するための財政的基盤の確立へ向けた取組は、いずれも具体性に欠け、また、不確定要素が多いことから、今後の一層の努力が求められる。